

『リターン!』を読んで

弘前市立北小学校 松山 佑季

ぼくは、『リターン!』という本を読みました。この本を選んだのは、五年生に読みたい本として、図書館で紹介されていたからです。

この本は、一樹が主人公の物語です。一樹は、めんどくさがりで消極的な人でしたが、ブーメランに夢中になり、仲間と大会を目指すことになって、どんどん積極的になって変わっていく自分におどろく経験をします。

ぼくがこの本を読んで、いちばん心に残ったところは、一樹が仲間のけがというアクシデントがあつて、自分のせいだという気持ちになり、大会前に仲間とケンカになってしまったところです。ぼくはこの部分を読んで、一樹のようにやっぱり結果が全てだと思う気持ちも分かるけれど、チームで戦うので、結果を急いだら決して良い方向には行かない、急がば回れが大事だということに共感しました。なぜなら、ぼくも集中力が続かないけれど、早く宿題プリントを終わらせてスッキリしたいと思うけれどあせって進まなくて、でも一回

休けいや気分転かんをすると、時間を無駄にしているようで、宿題を終えることができた経験があるからです。また、学校でもマラソンやドリル自習がおくれている、気持ちはあせていたけれど、同級生が、

「佑季、残りのドリル四ページだよ。」

「夏休み前のお楽しみ会、みんなで参加できるようにがんばれ。」

と応えんしてくれて、力をもらってやりとげることができました。

ぼくはこの本から、団結は大事である事と、アクシデントがあつても結果ばかりを急がず、みんなで意見を出し合ったり、協力したり、応えんし合ったりして、進んでいくことが大切だと学びました。これから、五、六年生の時間、同級生とのコミュニケーションを取るようにして、自分の好きなことやきょう味のあること、苦手なことにも色々とアンテナをはってすごしたいと思います。自分の好きなことを見つけた

ら、たくさん調べたり練習したりして、じつくりと努力したいと思います。ぼくは五年間スイミングを続けていますが、六級のテストでタイムがなかなかクリアできていません。で

も、年末までに合格する目標をもって、あきらめないで取り組んでいるところです。一樹たちのように、急がば回れが
んばつていきます。